

夏のはじめ、成虫はさなぎの部屋から地上に向かってはい出す。
 地上に出た成虫は木にのぼり樹液の出ている木を探し飛びたつ。
 主に夕方から夜明けにかけて活動し、樹液をなめて栄養分をとり、
 オスとメスが出あって子孫を残す。

羽化したての成虫のはねは白くてやわらかい。
 さなぎの皮を脱ぎ終えると後ろばねをのぼす。
 体が固くなるまで3~4日さなぎの部屋にいる。

さなぎになって約3週間たつと成虫
 の体ができあがり羽化がはじまる。
 さなぎの皮をおしさげながらぬぐ。

さなぎの部屋ができ前蛹となると
 幼虫のさなぎになる準備がすすみ、
 約2週間で皮をぬいでさなぎになる。

5月頃、幼虫はさなぎになる準備をはじめ。
 少し固い土までもぐって体をまわしながら
 あなを作り、口から出したべとべとした液で
 まわりの土をぬりかためて、さなぎの部屋
 (蛹室)を作る。蛹室が完成したころ幼虫は
 前蛹となり、じっとして数日間動かなくなる。

幼虫のオスとメスの見わけ方
 腹にV字マークがあればオス
 なければメス

カブトムシの寿命はほぼ1年。
 卵 → 幼虫 → さなぎ → 成虫
 とすがたを変えて成長し、
 子孫を残して一生を終える。

すがた	期間
卵	約2週
幼虫	7~10か月
さなぎ	約3週
成虫	1~2か月

夏の終わり、交尾をすませたメスは腐葉
 土や落葉がつみかさなっている土の中
 で2~3週間かけて30~60個の卵を産む。

産みたての卵は長さ3~4mmの楕円形。

約10日たつと直径6~8mmの球形。
 卵の中で幼虫の体もできあがる。

約2週間たつとふ化し1令幼虫となる。
 幼虫は腐葉土などを食べて大きくなる。

ふ化から約10日たつと20mmほどになり
 1回目の脱皮をして2令幼虫となる。

1回目の脱皮から約2週間たつと40mmほどになり、もう一度
 脱皮して3令幼虫となる。秋の終わりにはまるまると太り、
 腐葉土の中のやや深いところにもぐって冬越す。

